



TCA

— NEWS —

Vol.106 10月号

発行
富山市民国際交流協会
〒930-0002 富山市新富町一丁目2番3号
CICビル3F富山市国際交流センター内
TEL (076) 444-0642 FAX (076) 444-0643
発行責任者 広報・組織強化委員会

令和5年度総会・設立30周年 記念講演会及び記念交流パーティー報告



令和5年度理事会・総会報告

新会長に 庵栄伸氏を選任



令和5年度富山市民国際交流協会理事会が、4月27日(木)富山市国際交流センター会議室において開催され、総会提出議案等について審議し承認されました。

総会は、5月28日(日)に富山市長、市議会議長をはじめ来賓のご出席をいただき、開催されました。高木会長からの挨拶の後、令和4年度の事業報告並びに収支決算報告及び監査報告、規約の一部改正、役員の選任、令和5年度事業計画、令和5年度収支予算について審議が行われ、全て原案通り議決され、新会長に富山商工会議所会頭の庵栄伸氏が就任されました。

設立30周年記念講演会及び記念交流パーティー報告

総会に引き続き、ベティーナ・ギルデンハルトさんの記念講演がありました。設立30周年記念交流パーティーでは、感謝状贈呈を行い、長年にわたり協会の発展に多大な貢献をされた会員に、庵会長から感謝状と記念品が手渡されました。パーティーでは会員相互の親睦を深め新たな出発を祝いました。

設立30周年記念 感謝状贈呈者

- 1 特別感謝状(1名)
高木 繁雄
- 2 個人感謝状(6名)
志甫 秀枝 中川 泰三 堀田 順子
角谷 昭美 杉政 明美 新山 芳子
(敬称略)

「草の根のコスモポリタニズムー市民ができること」

講師 ベティーナ・ギルデンハルトさん
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部准教授



冒頭、講師がこのテーマを選んだ理由が、富山市民国際交流協会の英語名にコスモポリタンという名称があったこと、国際という言葉は他にグローバルもあるが、主に経済用語として使われるのに対し、コスモポリタンは、古代ギリシャの「世界市民」が語源で市民平等の意味合いがあるからだそうです。

またドイツを例に、2015年メルケル前ドイツ首相がシリア等から80万人もの難民を受け入れ、各国から賞賛をうけた際に、国内では色々と軋轢があったにもかかわらず、多くの市民のボランティア活動により、難局を切り抜けてきたとの説明がありました。そのボランティア活動も長く続ける間に、活動資金の不足や行政との対立、専門知識の不足などの問題が生じたが、これを解決するためには国の援助が必要であることも付言されました。このような草の根のコスモポリタニズムを定着させるには、不満を持っている人達への対応(ドイツでも御多分に漏れずPEGIDA*のような西欧のイスラム化に反対する団体もある)や、各自治体の取り組み、一般市民が不満にならないような対策、例えば難民が難民のための新聞を発行したり、行政が市民と一緒にイベントに協同参加することなどが挙げられました。つまり、外国籍の人も同じ市民として生活できるようにすることがコスモポリタニズムの基本であるということでした。

最後に、一般市民として外国籍住民に押しできることは、①ゆるやかな付き合いから始める②挨拶をする③やさしい日本語で話しかけるなど、積極的にコミュニケーションを取ることであると強調されました。

県内でもますます外国人居住者が増え、多文化共生が叫ばれる中で、示唆に富む講演でした。

※PEGIDAペギーダ(西洋のイスラム化に反対する欧州愛国者)は2014年にドイツに於けるデモ行動に始まった政治団体

第30回北陸都市国際交流連絡会総会・研修会

7月7日(金) とやま市民交流館・富山市国際交流センター

研修会では北陸三県の関係者84名が参加、うち福井県からは足羽高校の生徒10名など、28名もの参加がありました。全体会では、土井佳彦さんより講演をいただきました。留学生や技能実習生の増加に伴い、国内の外国人が急増している中で日本語教育の必要性が高まっており、資格を持ったプロの教師だけでなく、いかにアマチュアのボランティア教師を育成するかが課題であること、それを達成するには外国人学習者の要望と必要性を把握し、学習の手段と目的をはっきりさせることが重要である、とのことでした。その後、分科会では各県からいろいろな取り組みについての事例紹介がありました。コロナ下で、中断しなければいけないこともありましたが、新しい取り組みも多々あることを実感しました。3年ぶりの対面での開催となり、コロナ前には当たり前だと思っていた「会える」ことの尊さを感じた会でした。

研修会内容

全体会

講演 **日本語教育を取り巻く動きと地域の日本語教室**

講師 土井 佳彦さん

(特活)多文化共生リソースセンター東海代表理事

(一財)自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザー

分科会

① 地域の日本語教室

事例紹介 (公財)金沢国際交流財団・南砺市友好交流協会

② 地域の外国人との交流

事例紹介 ・多文化な生徒たちが奮闘!「AIS多文化共生まちづくり実践」

・地域に根差した交流活動

・ムスリム女性にも優しいまちの多文化保健室

③ 外国人コミュニティリーダー制度

事例紹介 福井県国際交流協会

クロージング

分科会から報告、講師の方によるまとめ

外国語ボランティア養成講座前期

第1部は講演を聴き、第2部は語学研修として、英語、中国語、韓国語のグループに分かれて、外国の方たちに説明する際に必要な語彙や表現を練習しました。参加者は、各回の講師のお話に熱心に耳を傾けていました。今後、海外の方を案内する際にも、この研修を活かしていきたいと思います。

第1回 5月27日(土) 参加者43名

第1部 講演 「新湊・射水ベイエリア(海王丸パーク・内川・昼セリ ほか)」

講師 (一社)射水市観光協会 春日 哲男さん

新湊ベイエリアには観光素材がたくさんある。新湊きつときと市場へは、新鮮な魚介類を求めて県内外から数多くの観光客が押し寄せており、隣接するレストランでは、格安でおいしい食事ができる。非常に珍しい新湊漁港での昼セリの見学の予約もそこでできる。海王丸パークでは、美しい帆船海王丸を見ることができ、年10回ボランティアによる総帆展帆も行われる。海王丸パークから歩いてすぐの新湊大橋は、日本海側最大の斜張橋で、車道とそのすぐ下にある遊覧歩道の2層構造からなり、エレベーターで上がって海の上の散歩(距離600メートル)を楽しめる。

内川周辺は「富山のベニス」とも称され、遊覧船で12の個性溢れる橋をくぐりながら、北前船で栄えた昔の港町の雰囲気を楽しむことができる。ここ最近、沢山の映画のロケ地となり、聖地巡礼の旅行者が絶えない。新鮮な魚を食べてもらおうと、海の幸の宝庫、富山湾の寿司を食べるツアーも組まれている。

課題としては、増加する一方の外国人観光客の為に免税品店を充実させ、多言語化を推進し、万葉線やバスを使った一日で回れる切符の開発などが挙げられる。

第2回 6月10日(土) 参加者42名

第1部 講演 「とやまのまち歩き」

講師 富山県自然解説員 大野 博美さん



木町の浜(昔あった船着場)

「先人の苦勞を知り、未来を思う。」という講師の最後のことがたいへん印象に残っている。神通川の度重なる氾濫から、馳越(はせこし)工事が多額の費用と時間、人力をかけてなされた。昔の人々の苦勞の上に今の生活が成り立っていると思うと、その当時の莫大なエネルギーに驚かされ、頭の下がる思いである。

松川に架かる舟橋は、当時日本最大であり、浮世絵にも描かれていたこと、江戸時代に松川(当時神通川)といたち川の合流点付近は、「木町の浜」と呼ばれ、下流の東岩瀬までの約8キロメートルには80艘もの舟が行き来していたなど、富山に長年住んでいながら初めて聞く話が多々あった。

町の中には建物や歴史、災害などを説明する看板がたくさんあるが、今まで全く気に留めずに歩いていたことをもったいなく思った。

講師曰く「普段通る道こそ立ち止まって見ることで新たな発見がある。」

遠い昔の歴史に思いを馳せながら歩き、次からはきちんと紹介できるようにしたい。

第3回 7月22日(土) 参加者41名

第1部 講演 「伏木エリア(国宝勝興寺 ほか)」

講師 観光ガイド比奈の会 二口 房代さん

勝興寺は2022年12月に国宝に指定されて以降国内外問わず、多くの訪問客で賑わっている。総額約70億円をかけた、23年に亘る修復が終わったばかりで、12の伽藍の内2つ、本堂と大広間・式台が今回国宝に指定され、残りの10の建物も全て、国の重要文化財に指定されている。きらびやかな仏壇や巨大蠟燭のある本堂や、菊と藤の文様のある襖が印象的な大広間、寺のあちこちに見られる埋木細工など、見どころが満載である。

この伏木を中心とした地域には、奈良時代の大伴家持にまつわる史跡や、弁慶・義経が通ったとされる雨晴海岸の義経岩、伏木北前船資料館など歴史にまつわる見どころの他に、氷見線を走るベルモンタという観光列車もある。

MPBで学ぶポルトガル語講座 講師 白川 セリナ サナエさん(ポルトガル語相談員)

4月10日(月) Saudosa Maloca / Os Originais do Samba 懐かしのあばら家 / オス・オリジナリス・ド・サンバ

5月 8日(月) O que É, o Que É / Gonzaguinha 人生ってなんだろう / ゴンザギンニャー

6月12日(月) Gita / Raul Seixas ギター(詩) / ハウウ・セイシャス

7月10日(月) Toda Forma de Amor / Lulu Santos どんな愛だって / ルル・サントス

最近、楽曲の歌詞のポルトガル語から日本語への下訳に、試験的にではあるが、チャットGPTを利用している。AIの作った翻訳文を、ブラジル人の先生とで、つぶさに検討し、手直しして教室で使用している。手直しは、詩らしい言い回しや語調への修正が中心で、明らかな文法的誤りは少ない印象だ。それにしても、チャットGPTが翻訳を生成するスピードには驚く。かなりの修正が必要でも、叩き台がこんなに素早く用意されれば、無から捻り出すよりはよほど効率がよい。何より良いのは、人が書いた文章と違って、遠慮なく改変できる点。以上、少し使ってみた感想。

委員会報告

総務企画・姉妹都市委員会 国内研修 参加者 29名

6月4日(日)

「なんと異文化交流フェスティバル」の視察を中心に、砺波・南砺の文化施設等を見学した。いずれの訪問先も、外国の方に限らず、より多くの人々に知ってほしい魅力に溢れていた。

①となみ散居村ミュージアム

教科書にも登場する散居村は、日本最大級の規模とのこと。ミュージアムは、その景観を保全するとともに、同地特有の自然と共存する為に生まれた伝統的な家屋形態(アズマダチ)や知恵を紹介する目的で設立されたそう。家屋や民具の実物を見ることもでき、「散居村」の多様な側面について理解が深まった。

②若鶴酒造(株) 三郎丸蒸留所

戦後、日本酒の原材料となる米の確保が難しかった時期に逆転発想し、米以外での蒸留酒の製造に着手したそう。近年、老朽化した蒸留所をクラウドファンディングで改修。高岡銅器の技術を活かした世界初の鋳造製蒸留器の開発や、井波の木工技術と県産材を活用した樽の生産等、地元伝統産業と協働し、富山ならではのウスキーづくりを目指しているとのこと。革新的な取り組みと伝統技術の融合に加え、SDGsへの配慮もされている地元産業の在り方に、誇らしさを感じた。

③なんと異文化交流フェスティバル(会場：福光福祉会館)

自国の文化を紹介する外国人の皆さんと話したり、ワークショップに参加したりとゆっくり交流できた。中国茶の試飲や、スラブ民族の伝統的なお守り人形“モタンカ”作り、インドのマングラ絵など、体験して楽しめる催しが多かった。マングラ絵は、一見難しそうだが、定規と分度器、コンパスを用いてベースが描ける。各自のセンスが大いに問われるデザインには、隣に座っていた小学生に劣らず熱中してしまった。バンブーダンスも体験したが、リズム感の無さで転びそうに！足腰を鍛えねば、と改めて痛感した。

④棟方志功記念館・光徳寺

棟方志功が家族とともに疎開していた時代の作品を中心に展示してある愛染苑(あいぜんえん)と、住居だった鯉雨画斎(りゅうがさい)を見学した。住居は至るところに当時の名残があり、厠(トイレ)の天井や壁にまで天女の絵が描いてあるのには驚いた。

また、棟方ゆかりの光徳寺も訪問した。日本にとどまらず、インド、アフリカなどから集められた品々が各部屋や廊下に展示され、境内にはいくつもの壺や鉢が置かれていて、お寺なのか民藝館なのか摩訶不思議な空間だった。

参加者の中には光徳寺前の道路をよく車で通るが、有名な寺とは知らなかったという人もいて、県内にはまだまだ埋もれた観光地があると実感した。

新型コロナウイルスの影響も一段落し、今後、海外から観光や留学、仕事などで富山へ来る人が増えると思われる。そういう人達が富山で楽しく過ごせるような交流のあり方を考えていきたいと強く感じた研修旅行だった。



なんと異文化交流フェスティバル

ボランティア とやま巡り 梅沢町界隈 参加者 11名(日本人8名、外国人3名) 5月21日(日)

富山出身ですが、ただ通り過ぎるだけで、知らないことも多いです。梅沢町も通ったことはあり、お寺が多いところだと思っていましたが、今回、地域の歴史やお寺の由緒など知ることができました。富山藩の合寺令、7宗7寺、売薬さんとのつながり、そして、観音様の疎開のお話など、いろいろとお聞かせいただきまして有難うございました。

とても楽しい時間でした。次の機会が楽しみです。(三上 恵美子)



りんちきよ
臨池居の跡
売薬発展に貢献した寺子屋

ボランティア とやま巡り 立山室堂平 参加者 25名(日本人12名、外国人13名) 7月23日(日)

富山で育った私にとって立山はなじみ深く「知っている所」だと思っていました。

ナチュラリストの方と一緒にの散策は、新たな発見と体験の連続でした。日本最古の山小屋、立山開山の由来と伝わる玉殿岩屋、初めて見る鳥「ホシガラス」、覚えきれない数の花々、タテヤマリンドウ、ミヤマリンドウ、クルマユリ…。そして雷鳥の親子に2回も遭遇することができ、雷鳥の記念シールまで手に入れました。

お天気にも恵まれ、参加者の皆様との親交も深まり、最高の山行きとなりました。(岩田 紀子)

富山在住14年目の夏を迎えた今年、念願の立山室堂を訪ねることができました。出発時から、富山の地形や川の右岸左岸など、知らないことをナチュラリストの方に沢山教えていただきながら、あっという間の散策でした。初めて降り立った室堂は、輝く青さと緑が作り出す優雅な姿が想像以上に素晴らしく心が震えました。小さな草花達のけなげな姿や生きる知恵、動物たちとの共生を知り、この貴重な自然を大切に守っていかなければならないと思いました。そして今回最大の感動は、ライチョウに出会えたことです。しかも2回目は至近距離でバッチリ姿を見ることができ本当に嬉しかったです。(永田 裕美)

国際教養 多国言語文化交流クラス インド共和国・デリー首都直轄領 6月24日(土)

講師 SUPRIYA PIPIL Ph.D.

インドは28の州とデリー首都圏、ジャンムー・カシミールを含む8つのインド連邦直轄領から構成されている。

28州は多様性に富み、食習慣、民族衣装、言語も異なる。

講師は北部出身で、ご主人は南部出身のため、主食は、北部で食べられるナンやロティ（パンの一種）と南部でよく食べられるお米との2種類を作っておられるとのこと。また、講師の母語はヒンディー語で、ご主人はテレグ語であり、通常会話は英語でされているようだ。

言語・文化・宗教が違うため、政府が一つにまとめるのはたいへん難しいことではあるが、平等に対応し、国民もそれぞれが尊重し合っている。

料理はスパイスを使うことで有名だが、特にターメリックは薬草としても用いられる。温めた牛乳に入れて飲むと肌に良いとのことである。また、ヒンディー文化では、結婚式の前に体を清めるためターメリック（ハルディ）を塗る儀式がある。

河川は、文明と農業の発達に重要な役割を果たし、デリーではヤムナー川とその肥沃な土地が文明の発展に貢献してきた。かつては多くの王が住み、歴史的建造物が多く残っている。



講師 エンガゲ パマ ドリアナさん

面積は日本の3分の2程度で、中央アフリカに位置し、西は大西洋に面している。人口が234万人のうち、25歳以下が50%を占める若者の国である。9つの州があり、公用語はフランス語であるが、約40の言語が話されている。宗教はカトリックが70%である。通貨は「中央アフリカCFAフラン」を使用している。

国土の70%が緑に囲まれた自然豊かな国で、13の国立公園があり、現在、森林や野生動物の保護、再生エネルギーの開発などSDGsにも取り組んでいる。

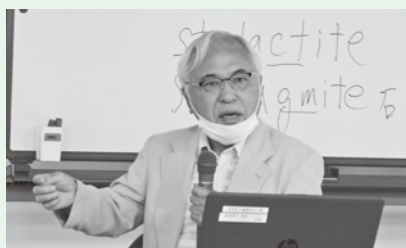
大西洋に近いので魚を多く食べるほか、イモ類やオクラ、緑色のバナナ、デザートとして自家製ヨーグルトにクスクスを入れて食べる。

教育制度については、小、中、高等学校と日本に似ているが、大学進学にはバカロレアに合格する必要がある。

伝統的な結婚式では、民族語で代表者同士が話し合いをする(ディスカッションをする)独特の儀式がある。500人ぐらいが集まり、翌日まで盛大に行われる。



国際教養 英語プレゼンテーション



6月6日(火)
Speaker
Mr. Jimbo Tadashi
Topic: "Joy of Cruising"



7月4日(火)
Speaker
Ms. Sa Mekh Harris Reed
Topic: "Things in Japan
That Just (Don't) Make Sense"



8月8日(火)
Speaker
Mr. Alexander Galdamez
Topic: "Pastiche, Satire, and Parody"

国際教養 英語通訳・ガイド実践クラス 実地研修

参加者 28名

6月17日(土)

訪問先 富山城址公園、TOYAMAキラリ、池田屋安兵衛商店

3つのグループに分かれてCicを出発し、途中の市役所やNHKなどの建物を順番に英訳しながら進み、城址公園では日本庭園の緑を楽しみ、石垣の鏡石*の大きさには驚いた。総曲輪通りを經由して、TOYAMAキラリへ到着。初めて訪れた日本人参加者もいて、チーフリ氏のインスタレーションに目を輝かせていた。その後、池田屋安兵衛商店にて売薬の説明に挑戦した。

*「鏡石」権力の象徴ともいわれる大きな見せ石。富山藩が成立した万治3年(1660年)以降に本格的な整備が行われた際に作られた。



石垣「鏡石」



富山城の石垣

※8ページ日本語訳※

とやま巡り 立山室堂平散策に参加して

ジョアンヌ ハウエル ジャクソン(英国出身)

富山に数カ月前に引っ越してきましたが、それまで立山を訪れる機会がありませんでした。知識豊富なナチュラリストの方がポイントとなるランドマークや地元の動植物を教えてくださいました。移動中も興味深いことで一杯でした。立山に到着した際も雷鳥を見ることができるスポットに連れて行ってくださいました。私たちは幸運にも雷鳥の母鳥とそのヒナたちを見ることができました。象徴的な白い鳥を想像していました。雷鳥は冬の間だけ雪景色に身を隠すため羽を白くすることをご存知でしたか。立山を訪れるときは、ぜひ目を凝らして見てくださいね。

お知らせひろば

お申し込み・お問い合わせは当協会まで
TEL 076(444)0642 FAX 076(444)0643
E-mail info@tca-toyama.jp

日 時	講座・イベント	定員(名)	ところ	担当委員会	会 費	対 象
10月1日(日) 8:30~11:00	富山市総合防災訓練参加	30	旧上条小学校 (富山市水橋石割)	合同	無料	会員・一般・ 外国人
10月15日(日) 13:30~15:00	華道体験	20	当センター	文化交流	300円	会員・外国人
10月28日(土) 13:30~15:15	外国語ボランティア養成講座後期①	35	とやま市民交流館	—	無料	会員
11月4日(土)	とやま巡り④ 称名滝	35	称名滝	ボランティア	未定	会員・外国人
11月12日(日) 10:00~16:00	国際交流フェスティバル2023inToyama	—	オーバード・ホール/ 中ホール	—	—	—
11月25日(土) 13:30~15:15	外国語ボランティア養成講座後期②	35	とやま市民交流館	—	無料	会員
12月17日(日) 13:30~15:30	ミニ門松作り	20	当センター	文化交流	未定	会員・外国人
11月	国際交流TCAカレッジ・姉妹友好都市研究講座	40	当センター	総務企画・ 姉妹友好都市	無料	会員

※行事については、ホームページ <https://www.tca-toyama.jp/> でご確認ください。協会までお問合せください。
※休館日(10月~3月)…10月17日(火)、11月21日(火)、12月なし、2024年1月1日・16日(火)、2月5日(月)・6日(火)・7(水)、
3月19日(火)

会員募集中

富山市民国際交流協会では、国際理解・国際交流や
多文化共生のための事業を開催しています。一緒に活
動してみませんか！入会をお待ちしています。

- ★各種イベントに参画できます。
- ★各種講座の優待や研修会に招待します。
- ★協会広報誌「TCAニュース」をお届けします。
ほかいろいろあります。

《年会費》

個人会員	3,000円
家族会員	5,000円
法人・団体会員	10,000円
優待会員(令和5年6月1日新設)	
大学生(短大生、専門学校生を含む)	1,500円
高校生	500円

社会に学ぶ「14歳の挑戦」～和合中学校～

5月29日(月)から6月1日(木)までの活動でした。以下、生徒さんからの
お礼状の抜粋です。

富山市民国際交流センターで働き学習したことは、「他の国の方と助け合っ
て生活していく。」ということです。言語が通じ合わなくても日本語などの言
葉を学び、助け合うことで絆が生まれ、日本と海外が仲の良い関係を築きあ
げられるということが分かりました。もし海外の方が困っていたら助けてあ
げられるように教えてもらったことを活かし、勉強をがんばります。



雷鳥だより (やさしい日本語・英語版)

広報・組織強化委員会

Vol.6号(9月号)
発行しました。

- 1 ページ 花火大会等のイベント
- 2~3 ページ 外で食べよう！遊ぼう！
- 4 ページ 夏の節電

皆様のご意見やご提案をお待ちしてます。
(協会Webサイト <https://tca-toyama.jp/> 参照)



雷鳥みつけた！
幼鳥を連れたお母さん雷鳥は、餌をついばむ子どもたちから目が離せません。



山岳信仰の始まり「玉殿の岩屋」
開山伝説によると佐伯有頼が熊を追いかけて7日7夜。着いたところがこの玉殿の岩屋。



石畳 里帰りした溶岩「安山岩・溶結凝灰岩」
弥陀ヶ原火山から流れ出た多量の溶岩は、立山一帯を埋め尽くし常願寺川にまで流れ出た。今は、立山に里帰りし、室堂の石畳となり、立山の成り立ちを伝えている。



名水百選「玉殿の湧水」
霊峰立山の雄山直下700mの「立山トンネル内の破碎帯」から噴き出た名水。コーヒーにお勧めですよ！

Although I moved to Toyama several months ago, I had not yet had the chance to visit Tateyama prior to this trip. The knowledgeable guides informed us of key landmarks, and local flora and fauna. Even the travel time was packed with interesting facts ! The moment we arrived at Tateyama, our guide took us to a great location for spotting 雷鳥 (Ptarmigans). We were lucky enough to see a mother with her young chicks! I expected to see the iconic white bird, but did you know their feathers only turn white during winter to help them blend into the snowy landscape ? Keep an eye out next time you visit Tateyama.

Joanne Howell Jackson

※日本語訳は6ページ参照

国際交流フェスティバル2023 in Toyama

富山に住むいろいろな国の人たちが集い、交流するお祭りです。
いろいろな国の人たちと交流してみませんか。

- 開催日** 11月12日(日)10:00～16:00
- 会場** オーバード・ホール／中ホール
- 内容** 世界の歌と踊り、国際交流・団体ブース、各国紹介ブース、日本伝統文化体験 等
- 共催** 富山市民国際交流協会、(公財)とやま国際センター、(独法)国際協力機構北陸センター



編集後記

今年の夏は、富山市をはじめ多くの都市で気象庁観測史上最多の猛暑日を観測しましたが、9月に入り過ごしやすくなりました。また、協会の行事もほぼコロナ禍以前のように実施できるようになりました。4年ぶりに本格的に開催される国際交流フェスティバルは、新設されたオーバード・ホール／中ホールが会場となり、より多くの人々が新しい会場に集い、楽しんで頂ける事を願っています。(大森)